

# (洗濯物を) あらう、ほす、たたむ

## 教科・場面

自立活動（作業）

## 授業・実践のねらい

- ・目と手の協応した動き、作業の巧緻性、ADLの向上を図る
- ・洗濯物について一連の流れを知る

## 対象の児童・生徒

高等部2、3年生（B班） 生徒4名

学習到達度スコア 聞くこと：60～48

話すこと：60～36

学習グループ（B班）の自立活動は、火～金曜日の1・2限目に『作業』と『からだ』に分かれて授業を展開しており、本グループは、火・木に『作業』に取り組んでいる。細部視覚より全体視覚の方が優位である生徒や粗大運動が得意である生徒など、手先を使う作業をにがてとしている生徒が多くいる。

## 教材・教具



### ●簡易干し竿

カットアウトテーブルを最大まで上げ、伸縮棒をセットするだけの簡易の干し竿。

他にも… ●計量カップに目印！

**工夫したところ** できるだけ家庭にある物を使用し、家庭でも行えるように意識した。

## 授業展開・教材の使い方・実践の内容など

### 『あらう』

手順表に沿って洗濯機を使用し、タオルを10枚洗う。

### 『ほす』

- ・丸型ハンガー（洗濯バサミ）に靴下、もしくはタオルをつける。すべてにつけ終わったら、伸縮棒に丸型ハンガーをかける。
- ・ハンガーにTシャツをかける。かけたら、伸縮棒にハンガーをかける。※2人1組で行う。

### 『たたむ』

- ・靴下の柄のマッチングを行う。マッチングできたら、重ねて二つ折りにする。※2人1組で行う。
- ・伸縮棒にかかっているハンガーを取り、ハンガーからTシャツを外し、たたみ機を使ってTシャツをたたむ。
- ・かごの中に無造作に靴下とタオルを入れ、選別しながらたたみ、別のかごに収納する。

## 授業・実践を通じた児童生徒の変容

- ・2人1組で行う連携作業を取り入れたことで、連続して作業をすると力が入りすぎてしまう生徒の作業時間がちょうどよい時間になった。
- ・回数を重ねるごとに、できた枚数が増えていった。